

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

□日時	平成23年9月8日（木）	13:30～
□場所	敷島総合文化会館	
□出席者	135名	
	（内訳）PTA関係者	102名
	市町村教育委員会関係者	31名
	その他（社会教育委員）	2名

1 いじめ、不登校問題について

（意見・質問）

- ・ スクールカウンセラーと児童生徒とはどのように話し合っ解決しているのか。

→（応答：義務教育課長）

- ・ スクールカウンセラーは、現在、小学校37校、中学校87校、高等学校6校に配置し、配置数は増加してきている。
- ・ 配置のねらいは、子どもたちの心のケアに加え、教員の相談体制を作ること。
- ・ カウンセラーから児童生徒に声をかけたり、子どもたちからカウンセラーに相談をするなどする中で組織的な対応を行い、子どもの気持ちを生かしながら学校に来られるようにしていきたいと考えている。

（意見・質問）

- ・ 教員が現状の把握をすることは大事だが、把握のみで次のステップに進んでいかない。
- ・ カウンセリングを個人的に行うだけでなく教育に織り込んで学校のなかに浸透させる方法がないのか。

→（応答：義務教育課長）

- ・ カウンセラー対応については、個々の対応が原則である。学校ごとに教員や管理職を含めてケース会議を開いて対応している。
- ・ 教育については、特別活動の道徳教育を行い、人の心を理解することについての教育や仲間づくりをおこなっていききたい。
- ・ また、社会福祉士や精神保健福祉士などのスクールソーシャルワーカーが児童相談所、福祉センター、行政などとの繋ぎ役となったり、総合教育センターでの子どもの心のケア相談などの体制づくりすすめている。

（意見・質問）

- ・ いじめる側のカウンセリングはどうなっているのか。

→（応答：義務教育課長）

- ・ いじめには、「いじめを受けた側」「いじめた側」「傍観者」と3つのグループがある。いじめを受けた側はもちろんのこと、いじめた側へも対応もしている。傍観者に対しては道徳特別活動などの時間や機会をとらえての指導を行っている。

2 武道必修化について

(意見・質問)

- ・柔道などは生徒の怪我が心配される。教員に対する武道指導者としての教育は徹底して行われるのか。

→ (応答：スポーツ健康課長)

- ・来年度より全ての学校で武道を導入することとなるが、必ずしも武道が得意ではない教員もいるため、2年間で延べ384人全ての武道を指導する体育教員に対する研修を受講させたり、指導案をDVD冊子で配付したりと、万全の安全対策を期すようにしている。

(意見・質問)

- ・武道授業に必要な武道具などは高価になる。個人負担でないといけないのか。

→ (応答：スポーツ健康課長)

- ・授業で武道具をどうするのかは学校毎の対応になるが、できるだけ個人負担が大きくなりたくないようにしてほしいと考えている。
- ・市町村によっては、武具の提供などに取り組んだり、使っていない武具などを学校に提供するよう呼びかけるなど、負担がかからないようにしているとも聞いている。

3 防災対策について

(意見・質問)

- ・震災から6ヶ月が経過した。今年は避難訓練が変わってきている。学校施設の耐震化は進んでいるが、実際の避難訓練をどうするのか検討していく必要がある。地域にあった避難訓練を徹底してほしい。
- ・中学校以上で防災リーダーの育成を考えて欲しい。

→ (応答：義務教育課長)

- ・市町村教育委員会の防災教育担当に集ってもらい、各学校での取り組みの確認と、防災対応マニュアルの見直しをお願いしたり、県から被災地に派遣された教員から現地の話の聞いたりした。
- ・学校だけでは出来ない部分もあるので、市町村教委も一緒に取り組むようお願いしたい。
- ・小中学校の防災リーダーとしては教員に対して研修を行っているが、現在、生徒に対する事業などはない。今後、ご意見いただく中で考えていきたい

→ (応答：高校教育課長)

- ・高校の防災リーダーについては、震災以前から取り組んでいる学校もある。地域とどのように関わっていけるのかの取り組みをしている。

(意見・質問)

- ・3月11日は、防災頭巾をかぶって集団下校したが、あの防災頭巾で頭が守れるのか疑問に思った。安全性の高いヘルメットを被る形には出来ないのか。

→ **(応答：義務教育課長)**

- ・震災時の下校体制について地域ごとバラバラの対応であったとの意見もあった。県下一斉に下校体制を統一することは、それぞれの地域の状況も違い出来ないと思うが、各市町村教委を中心に一定の地域ごとのまとまった対応の考え方をもつことも必要ではないか。
- ・ヘルメットについては、市町村教委や学校の考え方にもよる。防災頭巾の徹底はしている。

(意見・質問)

- ・防災頭巾の着用について、小学校は徹底しているが、中学校は徹底されていない

→ **(応答：義務教育課長)**

- ・中学校では指導を厳しくしているものの中学生に徹底させるのは難しい。教育事務所などを通じて指導していきたい。

→ **(応答：高校教育課長)**

- ・高校生も防災頭巾着用の徹底が難しい。座布団の持参を指導するのも難しい現状にある。自分の身を守る為にどうするのかということを指導徹底させたい。

(意見・質問)

- ・震災発生時、集団下校もあるが、最近は共働きが多く子どもが一人家に帰るのは安全なのだろうか。親が迎えに来るまでは学校に留めておくのがよいのではないか。

→ **(応答：義務教育課長)**

- ・今まで以上にみんなで考えて家庭、地域、地教委が一緒になって学校の防災を検討していないと実践的なものになっていかなないのではと思う。
- ・留守家庭等に対する児童生徒の下校対応は、各学校で年度初めに学校に提出する連絡カードなどでケース別に対応方法の取り決めをしている。今回の経験を踏まえ、改めて検討することを指導する。

→ **(応答：高校教育課長)**

- ・特別支援学校は児童生徒を直接引き渡しとしている。また、高校は広域から通うため、基本的には安全の確保ができなければ学校からは帰さないことを原則としている。

(意見・質問)

- ・メールを使った防災連絡を一斉送信できないものか。

→ **(応答：高校教育課長)**

- ・山梨県が被災地となった場合、アクセスポイントなどの電源確保が難しい、システム整備費用も高額であり、また、メール到達の遅延などが予想される。費用に見合うだけのシステムが有効に機能するのが難しい状況にある。他に有効に機能する方法があるのか、検討している。

4 学校へのエアコン設備設置について

(意見・質問)

- ・高校の普通教室のエアコン設置状況と、把握している範囲の市町村小中学校の状況を教えて欲しい。
- ・暑い中、運動会練習をした後、教室に入っても暑い状況にある。暑さ対策が必要ではないか。PTAからお願いしてもエアコンの設置が出来ない。どうしたら設置されるのか、早急に考えて欲しい。

→ (応答：学校施設課長)

- ・高校の普通教室では、甲府工業高校のみ設置している。現在、県立学校の教室内温度について調査を続けており、設置の必要性の高いところは、順次整備していくこととなる。
- ・小中学校について、市町村によっては整備しているところもあると聞いている。設置にあたり、国の補助金もあるので市町村への助言も引き続き行っていく。

5 高校でのキャリア教育・職業教育について

(意見・質問)

- ・高校の就職指導に対する支援は。

→ (応答：高校教育課長)

- ・昨年度の高校生の就職率は95%、例年に比べかなりいい状況であったが、今年度はこういう状況なので何とも言えない。
- ・インターンシップ推進事業に関しては、高校生が企業のニーズに応えられないなどの意見を企業の方からもらっている。普通高校でインターンシップの必要性については、子どもたちが、体で覚えるような就業体験の不足により、就職後、すぐ辞めてしまうことも多い。このため、自分の在り方、生き方をみつめることができるインターンシップは肌で感じる機会である。ご迷惑をおかけしているが、是非協力をお願いしたい。
- ・地域連携ものづくり人材育成事業は、専門高校から地元への就職により地元を支える役目を果たすようないい人材を欲しいとの企業からの要請から実施している。

→ (応答：小林委員)

- ・私の会社でもインターンシップを受け入れている。いろんな仕事があり、そのまま就職する人もいる。
- ・社長のイメージが変わるなど、社会の人と触れ合うことで成長する人もいる。いろんなことを感じることで、将来の夢も広がる大事な機会であり、大切なことだと思う。

6 特別支援教育について

(意見・質問)

- ・特別支援教育推進プランは素晴らしい計画だと思う。障害者にとっても豊かな学びの場の提供は必ず役に立つ。協力しながら進めていくことは大切である。
- ・個別支援計画を作っていると思うが、活用の仕方が学校によって様々であり、個別支援計画の活用についてどのように指導しているのか。
- ・特別支援の子どもの学習計画 専門教員の配置についてどうなのか。

→ (応答：新しい学校づくり推進室長)

- ・特別支援教育をH19年度から実施しているが、機能しているところとしていないところがあるのが現実である。個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、研修会等を通じて特別支援教育に関わる全ての先生の役割分担と情報共有ができる体制づくりをしている。
- ・専門教員の配置については、特別支援学級担任が長い方もいるが短い方もいる。特別支援学校のコーディネーターが、地域の小学校・中学校・高校に対してセンター的機能の役割を果たしたり、教育センターの相談支援部にも相談する中で、教員の特別支援教育に対する深い理解に繋げていきたい。

(意見・質問)

- ・特別支援学校の特別支援コーディネーターがセンター的役割を果たしているところがあるが、学校によってまちまちなのが現状である。コーディネーターが行きたいと言っても学校が必要ないと言っている。どうすればよいのか。

→ (応答：新しい学校づくり推進室長)

- ・市町村教育委員会にも相談していただければと思う。また、必要に応じて新しい学校づくり推進室の指導主事に相談いただければと思う。

(意見・質問)

- ・やまなし特別支援教育推進プランのもっと詳しい内容と、就学奨励費について聞きたい。

→ (応答：新しい学校づくり推進室長)

- ・やまなし特別支援教育推進プランは、社会的に自立が出来るよう支援していくためのもの。特別支援学校の生徒は増えており、老朽化に対応したハード面の充実と支援学校のセンター的機能としての役割や、人的配置の強化などがある。
- ・支援学校以外の特別支援教育の充実については、就学前の健康診断での福祉との連携や相談を充実していきたい。また、発達障害などの支援を必要とする子どもに対し、充実した教育を施せるような特別支援学校と地域の小中学校との交流及び共同学習や、地域の人たちとの交流活動の推進、教員の専門性の向上のための研修の推進などを行っていく。
- ・就学奨励費について、特別支援学校に在籍している児童生徒の保護者に対して、給食費や通学費を対象に支給している。

→ (応答：小林委員)

- ・私の会社でも特別支援学校の出身者に働いてもらっている。そういった人たちを社会で守ろうとしている。法定雇用率以下の他企業はもっと雇用の充実を図るべき。

(意見・質問)

- ・ 肢体不自由生徒に対する対応について、本人が行きたい高校があっても、移動が自由に出来ないため入学できないのが現状である。どのように考えているのか

→ **(応答：新しい学校づくり推進室長)**

- ・ 肢体不自由生徒に対して全て対応出来るわけではないがハード面での対応はかなり進んでいる。

→ **(応答：高校教育課長)**

- ・ 全ての高校ではないが、比較的新しい学校は、肢体不自由に対応出来る設備になってきている。

7 その他

(意見・質問)

- ・ 小学校の給食の食事時間が、カリキュラムが一杯などの理由で非常に少ない。食育といっても食育にはならない。いい工夫をしていただきたい。

(意見・質問)

- ・ 少人数学級や学力向上施策について、感謝している。先生は多忙で大変だという話を聞く中、新学習指導要領で内容は3割増えると聞いている。施策を実効性のあるものにするため、教員の増員などをお願いしたい。

→ **(応答：瀧田教育長)**

- ・ ご期待に添えるよう、出来る限りのことを支援していきたい。

(意見・質問)

- ・ 資料を事前配付願いたい。

→ **(応答：総務課長)**

- ・ 今後はできるだけ早く配れるようにしたい。